金の増える箱

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

金の増える箱

【Nコード】

N6839I

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

あるところにコーエンと言う裕福な男がいました。

ある日、コーエンは友人から不思議な箱を手に入れます。

友人によるとその箱は何とお金が増える箱だと言うのです。

あるところにコーエンと言う裕福な男がおりました。

ある日、コーエンは友人から不思議な箱を手に入れます。

友人によるとその箱は何とお金が増える箱だと言うのです。

「なんでこんなものを俺に譲ってくれるんだ？」

「いや、実はその箱、お金を入れた金額が高ければ高いほどお金が増えるんだ。だから俺が全財産箱に入れてもちよびつとしか増えないんだ。だからお前に買ってもらおうと思って」

「ふーん」

「どうだい、買わないか、その箱？」

「本当に金が増えるんだろうな。買うか買わないかはそれを確かめてからだ」

「もちろんそれでもいい」

初めコーエンは友人の言うことを信じてはいませんでした。

そんな都合のいい物がある訳ない、友人のちよつとした意地の悪い冗談だと思っていました。

しかし、コーエンが箱に金貨をたくさん入れた翌日、箱の中では銅貨が一つ増えていました。

「な、言った通りだろ」

「確かに・・・だが、本当に金貨十枚でいいのか？」

「ああ、いいぜ。俺が持つていても仕様がなからな」

「それはどういう意味だ？」

「コーエン。俺がその箱で銅貨一つ増やすのにどれだけ時間がかかったと思う？」

「さあ、想像がつかない」

「三年だ。三年かかってやっと銅貨一枚。それをお前は一日で増やしやがる」

「す、すまない」

「まあ、気にするなつて事よ。これからもたまに遊びにでも連れてつてくれたら、それで俺は満足だ」

「そうか。たまにならいい。だが、あまり俺にたかるなよ。人生損するぞ」

「ああ、知っている」

そうして不思議な箱を譲り受けたコーエンは、お金を箱に入れてはお金を増やして楽しんでいた。

しかし、ある日箱に異変が起きていた。

箱の周りで小人が忙しそうに箱を立派にしていたのである。

その光景にびつくりしたコーエンであったが、勇気を出して小人たちと話しかけてみることにした。

「ちょっと君達いいかな？」

「あ、コーエンさん。いつもお世話になってます」

コーエンが話しかけると、小人達の中の一人がコーエンにぺこりとお辞儀した。

「一体君達は何をしているんだい？」

「コーエンさんにはご迷惑をおかけしております。今、改修作業中でして。すぐに終わりますのでご容赦ください」

「ふーん。そうなのか」

確かに箱は古びた感じであったので、直す必要があったのかも知れない。

しかし、変にいじくつてお金が増えなくなつては大変だと思ひそのままにしておいたのだ。

それを進んで直してくれるとは何と親切な小人達だとコーエンは感心した。

「前から疑問に思っていたのだけれど、一つ聞いてもいいかな？」

「はい、何でしょう。私にお答えできるものであればお答えいたしますが」

「何でこの箱にお金を入れるとお金が増えるんだい？」

「それはですね・・・」

それから小人にいかにしてお金が増えるかの仕組みを詳しく説明されたが、コーエンは少しも理解できなかった。

分かったことと言えば今までお金が増えてきたのはこの小人のおかげだったということぐらいであろうか。

それからしばらくコーエンは小人達の作業が終わるまで眺めていた。

「コーエンさん。お待たせいたしました。いつも通り業務を再開できます」

「ああ、そうかい。終わったんだね。それじゃあ、いつも通り」
そう言つてコーエンは金貨の入つたずつしりとした袋を取り出し箱の中に入れた。

「確かにコーエン様のお金をお預かりいたしました」

「それじゃあ、またお金が増えたら取りに来るよ」

「はい。小人銀行、またの御利用お待ちしております」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6839i/>

金の増える箱

2010年10月10日03時13分発行